

# SSKA 東腎協

92年1月25日

No. 91

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）

事務局・〒171 豊島区

郵便振替口座

FAX

昭和四十一年八月七日第三種郵便物認可  
一S S K A通巻一九〇四号  
一九九二年一月十六日発行  
毎月六回（の日の日）



浅草・羽子板市（写真・本間正良）

## ●おまな記事●

- |                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| ○新都庁舎で腎キャンペーン…………… 3  | ○会員さん訪問（44）今井孝之さん…………… 12 |
| ○ともに生きる社会をめざして…………… 4 | ○東腎協のブロック活動…………… 14       |
| ○腎臓病を考える都民の集い…………… 6  | ○天まで届け献腎のこえ…………… 22       |
| ○医学ニュース・スポット…………… 8   | ○事務局から…………… 24            |



新年明けまして

お目出とうございます

会員・家族の皆様、また多くのご支援をいただいている皆様、明けましてお目出とうございます。

お蔭様で東腎協も、今年の十一月には、結成二十周年を迎えることになりました。

これも東腎協・全腎協の仲間や、応援をしてくださる多くの皆様のお陰と感謝しております。

思い起こしてみますと、東腎協結成の昭和四十七年度は、会費納入会員数は四百十一名、そして年間予算もわずかに二十万円にすぎませんでした。

このような状況で始まった東腎協の活動ですが、私たち役員は大

勢の会員の声援を背に受けて、がむしやりに活動を始めました。もちろん試行錯誤をしながら、また医療・福祉制度の勉強をしながらの活動でした。

昭和四十八・九年には、早速「都議会請願」にとりくみ、この活動を始めとして、身障者福祉手当の支給状況調査や、会員の実態調査なども行い、東京都の各局に対して、私たちの要求実現のための要請をつづけました。

たりということもありました。しかし東腎協活動の情熱は大いに盛り上がりかけておりました。

早いものであの頃からもう二十一年に達しようとしております。現在では「希望すれば、誰でも原則として、自己負担もなく、透析を受けられる」状況になっております。

それでは、もうなにも問題はなにかと言いますと、そういう訳にはまいたしません。新しい色々な問

題が山積しております。医療面からみると、その最大のものは、長期透析にともなう骨障害の問題です。そして透析導入患者と透析患者の高齢化の問題と、これらに起因する要介護透析患者の増加の問題です。

透析導入患者の四人に一人は糖尿病性腎症であり、導入患者の平均年齢は五八・一歳に達しております。これは一面では糖尿病性腎

症や高齢者へも適応症が広がった訳であり、喜ばしいことではあります。半面九〇年十二月末の透析患者数は十万人を超えており、医療費の増加ということも問題化している訳です。

また、同じ東京都である伊豆諸島においては、十九人の透析者がおりますが、このうちで島で透析やCAPDをしている人は三人にすぎず、残りの人は東京都本土や近県で透析をしている状況であります。

さらに、私たちの大きなよりどころの一つである年金制度をみて、負担と支給の公平化として、掛金の増額と支給額の引下げを検討されています。

このように私達の運動課題は尽きることがありません。私たちは二十周年を一つの区切りとしつつも、「生命(いのち)と生活(くらし)を守る」ために頑張つてゆく決意を披瀝しまして、新年の挨拶とさせていただきます。

## 運動課題は尽きぬとなく

東腎協会長 泉山 知威



笑顔で登録の呼びかけを行う都庁職員

## 一人でも多くの登録を

### 新都庁舎で腎臓病予防キャンペーン

十月の腎移植推進月間に予定されていた上野公園、小金井公園での

東京都などとの共催による腎臓及び角膜炎移植推進キャンペーンはあいにくの台風の影響で中止になりました。その後、東京都と連絡をとり二十三区では十一月九日、十日に都庁の都民広場で行われた衛生局主催の健康フェスティバルの会場の一角をかりて腎臓病予防キャンペーンを行いました。

会場の都合で、いつものような大掛かりなセレモニーは行えませんでした。が、腎臓病登録のよびかけのチラシ、粗品を配るとともに、腎臓病、アイバンクの登録受け、腎臓病と眼の医療相談もあわせて行いました。

都庁の都民広場は新都庁舎展望台の見学者も多く、チラシ、粗品、六千組を幹事、常任幹事など二十人ほどの会員、東京都の職員で二日間て全部配ることが出来、腎臓病のことを知ってもらう良い機会が得られました。(草間)

### 八王子でも開催

多摩地区でもあわせて十一月十日に八王子駅前会場で開催しました。東腎協会員も五十人が参加し、今回はチラシと粗品をいれた袋が千個と少なかつたので、十時から配布を始め、一時は日曜日でもあり、朝から人出も多く思ったより効果があり、キャンペーンの意義があつたと思います。

日程が急に決まつたので、準備が大変でした。千個といつてもチラシと粗品を詰める作業を狭いところで準備をしたので袋の山となり、車で運ぶときもライトバン一台では積めず二台に分割して会場まで運ぶという現状で大変でした。会員さんも何度もキャンペーンを行っているので配布も手なれたもので手際良く配り盛況でした。参加されました皆様ご苦労様でした。(竹田)

# ともに住める社会をめざして

国際障害者年新東京都行動計画の策定に対する「協議会」の意見・要望まとめ

事務局長 森 義昭

国際障害者年新東京都行動計画

(以下東京都行動計画という)は、平成二年度をもってひとまず終了した。この間の障害者対策は全般に見れば着実な進展をみている。しかし、国際障害者年のテーマである「完全参加と平等」を実現するためには、引き続き計画的な施策の実施が望まれるところである。

ある。

こうしたなかで、東腎協も参加している国際障害者年新東京都連絡協議会(以下協議会という)は、東京都に対し、かねてより協議会の存続と東京都行動計画の継続を強く要望してきた。

東京都はこれに応え、「新東京都行動計画」の策定を決めた。この策定にあ

からの意見を踏まえ、都民の要望

を可能な限り反映させるものとすし、平成三年度末までに「東京都障害者対策推進本部」において決定する、とされている。

東腎協は、協議会委員として森事務局長を推薦し、森事務局長は平成三年六月二十七日の第一回会議から、十二月二十四日までの八回の会議に出席し、東腎協としての要望・意見を陳述してきた。

その内容は、活動方針に基づき腎疾患総合対策の確立を願う立場から医療の充実を中心に二十三項目に上っている。

まず「医療の充実」としては、透析導入患者数がいっころに減少傾向を示さないことから、病気の早期発見・早期治療体制の確立、そして、都立病院における腎移植を含む腎医療の質的・量的拡大と同時に腎臓病の早期発見・早期治療から腎移植まで可能な総合ケア

国際障害者年と東京都の対応

国際障害者年は、一九七六年昭和五十一年)の国連総会において決議され、五年後の一九八一年昭和五十六年)をその行動年とすることが決められた。

その行動計画の目的は、障害者がそれぞれの社会で、社会生活や社会の発展における「完全参加」と、彼らの社会の他の市民と同じ生活条件及び社会的・経済的発展によって生み出された生活条件の改善における平等な配分を意味する「平等」という目標を推進することとされている。

そして、①障害者の社会への身体的・精神的適合を援助すること②障害者に対して適切な授産、訓練、治療、指導を行い、適当な雇用の機会を与え、また障害者の社会における十分な統合を確保するためのすべての国内的及び国際的努力を促進すること③障害者が日常生活において実際に参加することについての調査研究プロジェクトを奨励すること④障害者が経済、社会及び政治活動の多方面に参加し、及び貢献する権利を有することについて、一般の人々を教



イラスト  
障害者のためのカルチャースクール生徒作品

の策定にあたっては学識経験者らからなる「東京都心身障害者対策協議会」からの提言及び障害者団体(十九団体)の代表をもって構成される「協議会」

ンターの設置を要望した。また、大島などの島しよでの透析医療の確保、常に私たちの大きな課題となつてはる災害対策、長年の課題である慢性腎炎に対する公費負担についても意見・要望を述べてきた。

次に「雇用の促進」については、透析患者については毎年、職業安定所の斡旋で一定の成果を挙げているものの、障害者の雇用率は相変わらずの低い水準に止まつて



国際障害者年10年の集い会場

おり、雇用率達成や東京都での採用を要望した。

「福祉サービスの充実」では、児童扶養手当での透析患者にかかわる認定基準の明確化や有料道路料金割引制度の対象化を国へ働きかけるよう要望している。また昨年十二月、全腎協が発表した報告書に見られるように要介護透析者の問題が切実になっていくことから、通院のための介護保障や通院費の助成を要望した。

## 東腎協をPR

十一月十六日、十七日の両日にわたり、都庁の都民広場で国際障害者年十年記念の集いが開かれた。

この集いで、東腎協は障害者団体PRコーナーに他の障害者の人たちと共に参加した。

大会議場では、「完全参加と平等」

「ともに生きる社会」の実現に向かって私たちの意識、環境、生活はどう変わってきたのかを、「東京・ニューヨーク／今日・あした」と題して国際シンポジウムが開かれた。

「生活環境の整備」については、島しよ出身の透析患者のようなケースに対する都営住宅の優先入居をお願いした。

これらの要望は「協議会」の意見・要望として昨年十二月二十七日東京都福祉局長へ提出されたが、「東京都障害者対策推進本部」においてどう反映され、新東京都行動計画に取り入れられるのかを見守っていききたい。

また、中央舞台では人気歌手の忍者などのコンサート、肢体不自由の人たちの合唱などが行われ、私たちも若い人たちと一緒に見入ってしまった。

東腎協としては、用意されたテント内にビデオテレビなどを持ち込み、全腎協二十周年記念のビデオを紹介するとともに、腎バンク登録の呼び掛け、東腎協のPRを行った。

この催は国際障害者年の十周年を記念して特別に行われたが、今後も継続して毎年開かれるよう要望し、腎臓病についての一般の人たちの理解を求めよう進めていきたい。

(草間)

育し、周知すること⑤障害の発生予防及びリハビリテーションのための効果的施策を推進することの五つの目的を掲げ、この表現に向けて、各国の政府、自治体、民間団体などすべての国民が積極的に立ち上ることを求めている。

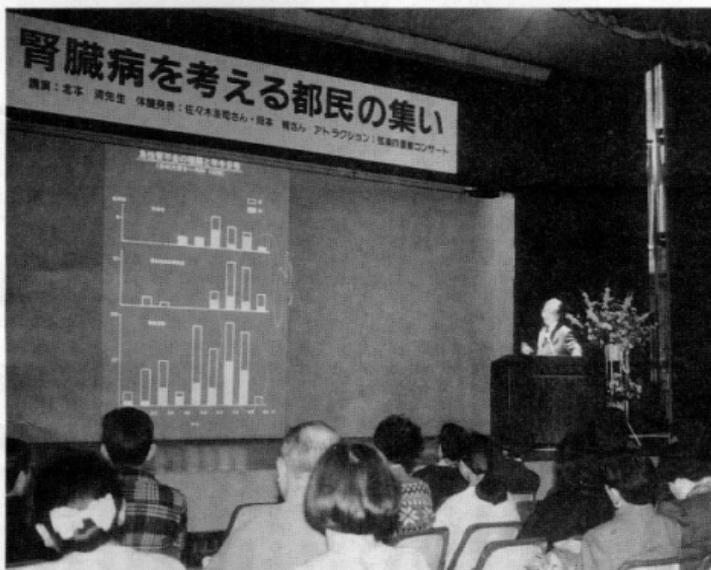
これにちよえて東京都は昭和五十五年、知事を本部長とする「国際障害者年東京都推進本部」を設置して、総合的・体系的な障害者対策の推進を図るとともに、その行動計画の策定にあたり、学識経験者らによる「東京都心身障害者対策協議会」を開催し、また当事者の意見や要望を取り入れる場として、私たち障害者団体代表らによる「国際障害者年東京都連絡協議会」を設置し、具体的な施策について昭和五十六年度を初年度とする「国際障害者年東京都行動計画」が策定されたのである。

この行動計画は平成二年度をもって一応終了したが、「完全参加と平等」を実現すべく、また「協議会」の強い要望もあつて、東京都は二十一世紀に向けた新たな視点にたつた施策の推進を図るために「新東京都行動計画」の策定を決めた。

生きていてよかった

# 腎臓病を考える都民の集い

感動を呼ぶ体験発表



スライドを使ってわかりやすく説明する北本先生

東腎協の、第五回「腎臓病を考える都民の集い」は、十一月十七日（日）東京都、東京都医師会、腎移植普及会のほかに、武蔵野市にも主催団体に参加していただき、JR中央線吉祥寺駅に近い武蔵野公会堂に一般都民、会員、家族合わせて二百十人が参加して開催されました。

（本簡）

## プログラム

### 一、開会

総司会 松村満美子

あいさつ

石館敬三（東京都衛生局技監）

柳内 嘉（東京都医師会理事）

泉山知威（東京都腎臓病患者連

絡協議会会長）

### 二、講演

「腎臓病のはなし」

北本 清（杏林大学医学部助教

授）

### 三、体験発表

「私の腎臓病の付き合い方」

佐々木浩司（東腎協個人会員）

「透析二十三年そして移植」

岡本 暁（人工腎臓虎ノ門・高

津会）

### 四、アトラクション

弦楽四重奏コンサート

### 五、閉会の挨拶

石井明子（東京都衛生局医療福

祉部長）



司会の松村さんとトーク・  
佐々木さん(写真右)

開会一時間前には、早くも来場する方があり「都民の集い」に対する関心の高さがうかがわれます。参加者には、受付でプログラムと一緒に「腎登録キャンペーン」のパンフレットや、昨年の「腎臓病を考える都民の集い」の報告集をさしあげて入場していただきました。

午後一時、松村満美子さんの司

会が始められ、主催者側から東京都衛生局技監・石館敬三さん、東京都医師会会長・福井光寿さん、東腎協・泉山知威会長から挨拶がありました。行政側から、医師の立場から、患者としての実体験が



透析23年後移植の岡本さん

ら、それぞれに、腎臓病は沈黙の臓器と言われ、自覚症状のすくない病気です。そして、知らない間に悪化して大事に至ります。これを防止するには、早期発見、早期治療が大切で、積極的に検診を受けることや、治療を中断しないことなど、腎臓病に対する、認識を深めて欲しいことが、述べられました。

講演と体験発表では、最初に、杏林大学医学部助教授・北本清先生の「腎臓病のはなし」の講演を行いました。

北本先生は「一口に腎臓病といっても、数多くの種類があり、病気にはその症状にあった、生活や治療が大切である」また、新聞の切り抜きを示しながら「現在ではいろいろな医療情報が、たくさん出されているが、そのことを用い



中林(右)、副島先生の医療相談

るときには、主治医と相談をして、取り入れてよい方法や、悪い方法を取捨選択しなければならぬ」など、腎臓病の一般について、スライドを使いながら話をなされました。

体験発表では、慢性の腎臓病患者として、佐々木浩司さんが「私の腎臓病のつきあい方」について発表しました。

佐々木さんは「病気が慢性とわかり悩んでいたときに、東腎協を知り多くの仲間がいることや、会員交流会の話し合いで、勇気づけられた」と語り、慢性の腎臓病にとって大切な、食事療法には家族の協力が必要で、奥さんと一緒に栄養士の指導を受けたことや、毎日の食事を作る奥さんには、大変感謝していることを話してくれました。

した。

体験発表の二人目は、岡本曉さんで「透析二十三年そして移植」について、「二十三年前の透析導入の頃は、体調も悪く、歩くのはトイレに行くときだけで、後は一日中ベットで寝ていました。その後体調もよくなり、仕事もできるようになりました。社会復帰をして、二十三年たった今年(平成三年)三月に、死体腎の提供を受けて移植手術をしました。

手術後の今は、体調もよく仕事も始めているが、無理をしてはいけないということで、仕事量は透析前の七割程度に抑えている」と話をする岡本さんは、健康人そのものです。そして「透析導入の頃、病院に見舞に来る両親の顔は暗かったのに、移植手術で入院中に来る顔は明るくなった、とにかく生きていてよかった」とはなした時には、会場いっばいに感動の拍手が鳴り響きました。

講演と体験発表の後は、弦楽四重奏団のすばらしい演奏を楽しみました。また、ロビーでは専門医による医療相談や腎移植普及会の腎登録も行われ、多くの方が質問や相談を受けていました。

## 透析のかゆみ治療に抗アレルギー薬

### 血中ヒスタミン濃度に関連

#### 横浜港南病院調査

透析患者の皮膚掻痒症の原因が分かっているが、横浜港南病院内科の高橋淳子医師は、慢性炎症のときに出現する肥満細胞が、

ヒスタミンを放出するためではないかという研究成果を発表した。

研究グループによると、同病院の外來患者の二百六十二例（男性百八十一例、女性八十一例）の掻痒症のアンケート調査を行なった。患者の平均年齢は五十二・八歳、平均透析期間は六年十カ月だった。

調査ではかゆみの程度を五段階

に分けて自己評価してもらおう一方、かゆみのレベルと年齢、透析期間、ダイアライザールの種類、服用薬、臨床検査値、血中ヒスタミン濃度との関係調べた。

その結果、かゆみのレベルは、0（なし）が九十二例、1（少しある）が八十三例、2（ある）が五十一例、3または4（かなりある以上）が三十六例だった。レベル2以上を掻痒症の陽性と判断すると、八十七例、全体の三三％が陽性だった。

かゆみの程度は、年齢が高いほど、そして透析歴が長いほど強い傾向が見られ、血中ヒスタミン濃度も関連性があることが分かった。また、濃度の高いほどかゆみが強いことも判明した。

研究グループは、基礎研究としてラットの腹腔から抽出した肥満細胞に、透析患者の血漿を加えて、肥満細胞から放出されたヒスタミン量を測定したところ、かゆみの程度と比例して、ヒスタミンを多く放出していることが分かった。

## 医学 ニュース スポーツ

脳死を人の死と認めずに臓器移植を可能にしようという私案が、評論家の立花隆氏や学者、医師らのグループが作成した。

このグループは、「生命倫理研究会」（吉利和代、表）で、会員は医師の福岡誠之氏、ノンフィクション作家の中島みちさんら十三人。

基本的な考え方は、①人の死には文化・社会の諸問題がからむ②脳死を人の死とすると、肉体的

社会的な弱者の人権を侵す懸念がある一などの点から、脳死を人の死として立法化しないこと。他方、臓器移植の必要は認めるが、脳死を人の死としないまま臓器を摘出すると、刑法の殺人罪に該当するので違法性を退ける特別の法制化

### 脳死、なき臓器移植

#### 生命倫理研で試案つくる

の可能性を探った。

そこで私案では、脳死者からの臓器の摘出については①ドナーの承諾がある②ドナーカードなど本

人の署名入り書面で承諾を確認できる③家族か異論を表明しない④の三点が全て満たされた場合、臓器を摘出できると規定した。承諾は、ドナーカード制度が普及するまでは家族（配偶者か一等親の家族）の証言でも可能とした。

また、脳死の判定基準は、法に付属するガイドラインの形で定め、厚生省基準に脳血流循環検査などを加えるとともに、

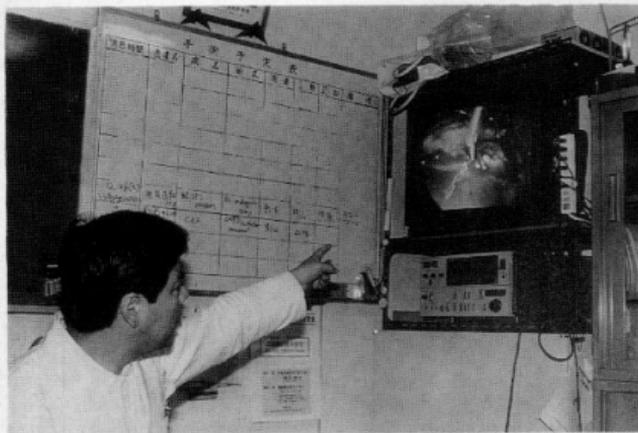
脳死状態の観察時間を二十四時間（厚生省基準は六時間）にするなど厳しい内容にしている。（薫）

### 効果をあげた ケトチフエン

#### 東京三井記念病院

こうした原因を裏付けるように、掻痒症の治療には抗ヒスタミン作用をする抗アレルギー薬が有効だとする成績も出ている。

掻痒症の治療には、抗ヒスタミン作用をする抗アレルギー薬であ



摘する鈴木和雄助教

るケトチフエンが、効果を上げる  
ことが分かった。

東京・千代田区の三井記念病院  
内科の梅津道夫医師らは、透析治  
療を受けている患者のうち、皮膚  
掻痒を訴えている六十一例(男性  
四十六例、女性十五例、平均年齢

五十六歳、透析期間は平均六十五  
カ月に、ケトチフエンカプセル  
(一ミリグラム)を一回、一カプ  
セル、一日二回を八週間にわたっ  
て内服してもらった。

そして、かゆみの程度を0-4  
段階に分けて記載してもらった  
が、八週間継続し  
て内服できたのは  
五十五例だった。

掻痒症の改善後  
を調べたところ、  
明らかに改善され  
た患者は三四%、  
中等程度の改善は  
三〇%、軽度の改  
善は二五%、まっ  
たく変わらなかつ  
たのは一〇%で、  
副作用は六九%の  
患者でなかった。  
ただし、四例に使  
用中に再び掻痒症  
がでた。

この成績から梅  
内視鏡を使って腎  
摘する様子を説明  
する鈴木和雄助教

津医師は、ケトチフエンは掻痒症  
の治療に有用であるとしており、  
今後、臨床現場で使用されるケ  
スが増えそうだ。

## 幼児の腎摘出 内視鏡手術で

浜松医大で成功

浜松医科大学泌尿器科(河邊香  
月教授)のグループは、尿失禁の  
原因の一つで、数万人にひとり  
の病児・尿管異所開口の女児患者  
(四歳四カ月、静岡県浜松市在住)  
を、開腹手術ではなく、内視鏡を  
使って行う新手術「腹腔鏡下腎摘  
出手術」で治療することに成功し  
た。尿失禁以外にも腎臓その他の  
内臓疾患全般に幅広く応用出来る  
摘出術で、腎疾患に悩む子供たち  
にとっては朗報になりそう。

成人の腎摘出手術は東大付属病  
院などで数件成功しているが、幼  
児の成功例は国内初、世界でも極  
めて珍しいという。患者は尿失禁  
が完治し、術後の経過も順調、今  
週中にも退院する。手術の成果は  
一月三十一日に東京都・日本教育  
会館で開かれる腹腔鏡下腎摘出術  
研究会(会長・阿曾佳郎東大教授)

で報告される。

摘出手術が行われたのは今月二  
十日。同泌尿器科の鈴木和雄助教  
授ら四人のチームが担当。同助教  
授による尿管異所開口は、本来、  
膀胱につながるべき尿管が、尿道  
などにつながり、尿が漏れる病態。  
摘出術を受けた女児は右の腎臓も  
萎縮し、尿管が会陰部につながっ  
ていた。

三時間半に及んだ摘出術では、  
下腹部に直径五・一〇センチの管を五  
本通し、カメラを挿入してモニタ  
ーで見ながら四人が共同執刀。萎  
縮した腎臓の位置を確認しながら  
鉗子やクリップで患部を摘出する  
方法で行われた。

鈴木助教授らは「幼児への腹腔  
鏡下腎摘出術は、臨床医の課題に  
なっていたもので腎摘出の必要な  
病児の子供たちにとっては朗報だ  
と思う」と話している。

(関連写真上)

本欄は読売新聞社の協力で編集  
作成しましたが、今回で終わり  
ます。

(連載・その6)

加藤 茂

# 私の雑記帳

初詣は、二年続けて近くの東京大仏(板橋区下赤塚)へ出かけた。紅白歌合戦を見ていた途中だったが、次男(小五)と午後十一時十五分に家を出る。寒いと思っただが、意外に寒さを感じない。

## 幾つかの願ひ事を

私の住む所は板橋区の高島平団地で、東京大仏のある乗蓮寺まで歩いて行ける。この周辺は、その昔、徳丸が原といわれ、徳川時代の頃は將軍の鷹狩り場があった。乗蓮寺の東京大仏は高さ八m、東京のちよつとした新名所ともなっている。近くには郷土資料館、区立美術館、区立植物園などがあり、恰好の散策コースになっている。さて一九九一年もあと十数分、

境内には沢山の参拝客で賑わってきた。今か、今かと元旦のくるのを待っている。そして一九九二年一月一日午前零時の時が刻まれると一斉に賽銭箱にお金が投げ込まれ、各自願ひ事をしている。

私も神妙に①今年も家族全員が健康で過ごせますように②高志(長男)の高校受験が合格するよう③全腎協、東腎協の二十年史・誌の編集委員としての責任が果たせますように④昨年にも増して美術館巡りができますように。できるなら都内だけでなく遠方の美術館にも行けますように⑤その他にもいっぱいいいことがありますように……と欲張ってお願ひしたのだった。初詣に来ていた人は昨年よりも大分多かった。パブル経済

の崩壊現象で、神頼みする人が増えたためだろうか、と勝手な想像をしてしまった。

## 東腎協の「二十年誌」

ノンビリと大好きな美術館巡りばかりしてられない新年のスタートを切ってしまった。全腎協の二十年史の方は最終段階。東腎協の二十年誌は、編集委員会を二回持っただけでやっとスタートラインについたというところ。なにしろ十年誌に引き続いて私が編集責任者をやれ、と決まってしまったのだ。責任は重い。昨年(十二月十四日(土))開いた第二回の編集委員会では、大まかな構想を話しあった。その内容は次のようなものだった。

①二十年間の運動を振り返って(寺田、石坂、宝生、石川、泉山)歴代会長を中心とした運動の展開)②座談会(家族と透析)③体験記(一年、十年、十五年、二十年、最年長の透析患者、男女各一人づつ)④十年誌に会員の手記を寄せた人へのインタビュー(対象五人)⑤透析十五年以上の会員名簿の発表(対象八百人)⑥資料(腎キャンペーン関係、活動年表、九二年度の役員紹介)⑦現在の東腎協の活動紹介、東腎協入会案内、など。

具体化、不足するものについては、次の編集委員会(一月末予定)までに各自提起できるように考えたいというものだったが、基本的考え方は十年誌と同じようになり肩苦しいものは掲載せず、会員の人を読んで納得できるものというところで一致した。会員の皆さんで何かいい智恵があれば、事務局へ連絡していただければ、と思う。

## 山口則子さんのこと

最近、各県でも結成二十年を迎え、記念誌を発行しているようだが、いい企画は使わせて頂こうと思っている。たまたま秋田県腎協

●「東腎協20年誌」の編集スタート。山口則子さんのことなど…。



東京大仏（板橋区下赤塚・乗蓮寺）

の「限りなき道へⅡ」（秋田県腎協二十周年のあゆみ）を秋田県腎協副会長の山口則子さんから自宅に送って頂いたものが参考になったので、取り寄せてもらって編集委員の人には全員読んでもらうことから具体的第一歩を始めた。

山口則子さんは、十数年前、全腎協の運動を通して知り合い、ずっと文通を続けている仲なのだが、「限りなき道へⅡ」は彼女が編集責任者として作りあげたものだった。現在、「全腎協」の表紙を飾っている越後谷修さんの素敵な写真の表紙、「透析今昔（古い患者さんたちに聞くためになる話）」、略年表、各種資料などよく整理されてまとめあげてある。山口さんは、今から六年ほどまえ透析十周年を記念して「終わりなき旅路」という「自分史」を出している。私も寄稿した一人なのだが、それには山口さんと私との関係についてこんな風に綴っていた。

「私と山口さんとを結びつけたことは、今から数年前に東腎協の事務所に有料で東腎協の機関誌「東腎協」を読みたいと手紙が来た時からです。編集者（私のこと）にとって、これ以上うれしいこと

はありません。「わざわざ有料で読みたいなんて……」とお礼のハガキを出したことが縁になって、その後ずっと手紙やハガキが行き来しています。山口さんも私も患者会の機関誌づくりのために努力している、というたつた一つの共通点がお互いを結びつけたのでした。――中略――私は、まだ秋田県には一度も行ったことがありません。ハガキを読みながら、角館はどんな所だろうかと想像するのが楽しみです。山口さんと会うのは決まって全腎協の総会。毎年あちこちで開催されるのですが、どんなに遠くとも出かけていこうとする気概、それにも増して感心することは、毎年一人でも多くの人と知り合いになるんだという積極性です。総会会場で全国津々浦々の人と談笑している場面にぶつかります」。

山口さん、秋田県腎協の二十年誌の編集、ほんとうにご苦労さまでした。

ともかく一九九二年になった。やれるところまで頑張れば、誰かが応援してくれるだろう。

一九九二年 冬

（「東腎協」編集委員）

# 会員さん

## 訪問

第44回

今井孝之さん

「ケセラセラ人生、なるようにしかならないですよ。酒も煙草もやっています」血色のいい顔色は、透析歴十八年の人とはとても思えない今井孝之さん（五十二歳、東高田寺クリニック・フェニックス会）が淡々と話してくれた内容は、順調どころが、起伏の激しい透析人生といえるものでした。

### 二度腎臓移植を

「ずいぶんお元気そうにお見受けしますが。」

今井 とくに食事に気をつけることもないし、酒も煙草もやっているのですが、ヘマトクリットは透析前で三五%くらい、透析後で四三%くらいあります。エリスロ

ポエチンを打たなくてです。造血機能がまだ残っているんでしょわかねえ。

「—といっても、今までのいろいろご苦労されたようですが…。」  
今井 姉と母から二度腎臓を移植して、うまくいかず、尿管の手術も二度受けています。

—その経過をお聞かせ下さい。  
今井 昭和四十九年の夏でしたか、当時千葉に住んでいたのですが、友人の葬儀に参列するため大船まで行った帰り、体が猛烈にだるくなり、東京の実家に寄って、近くの佼成病院で診察を受けました。「腎臓が悪いから、シャントを作っておいたほうがいい」と勧められ、そのおりに透析室も見せてもらいました。

シャント手術そのものも嫌だったし、御覧になったでしょう、前回の全腎協総会の会場にも展示されていた、あのでっかい透析機器を見て嫌になりましたねえ。別の



医師で植物学者の人から薬草をもらって、それを煎じて飲んでいました。勤めは休んで実家で療養していたのですが、その年の暮れ、尿毒症を起こして佼成病院に担ぎ込まれました。

今度は有無を言わず、右手に外シャントを作って即刻透析にはいりました。不均衡症候群を起こして、透析が体に馴染まず、苦勞したのに僅か二か月で外シャントは潰れてしまいました。すぐ右手に今度は内シャントを作りまし

た。  
母や姉が病院で移植して元気になった人を見て、「是非移植をしましょう」と言い出しました。全員賛同した両親、兄弟五人（今井さんは五番目の次男、今井さんを入れると女性四人、男性二人の六人兄弟）のうち、血液型が同じで一番適合性のある姉の田桐和江さ

ん（当時四十一歳）の腎臓を五年の春、移植しました。  
移植手術は、佼成病院の紹介で当時北里大学病院におられた内田久則先生（現東大医学研究所）の執刀で行いました。

### 移植一週間で拒絶反応

今井 一週間で拒絶反応が起きました。私はせっかく姉からもらった腎臓を粗末にできるものか、と高熱、悪寒に苦しみながら、体中の冷やせるところは全部、水を当てて頑張りました。放射線を当てて生き返らせようともしました。でも二十日ぐらいのはずのが精一杯でした。また透析にかえりましたが、同じ年の秋、今度は母（淳子さん、当時六十二歳）がどうしても移植すると言い出しませんでした。

一回目と同じ、北里大学病院で移植手術を受けました。やはり一週間で拒絶反応が起きました。一回目のこともあり、今度は直ぐ取り出しました。

当時私は三十五歳、長男が小学四年、次男が生まれた年に透析にはいりました。仕事も充実し、人生もこれからという時でした。移

# 「ケセラセラ」「といいながら 母、姉からの腎臓の重みを

植には確かに精神的な負担はありました。両親、兄弟の申出に躊躇もしました。しかし、当時透析でも長くもって四、五年といわれていましたし、事実病院でも回りがばたばた死んでいました。

私は薬をも掴むつもりで移植を受け入れました。

母は十二年前に亡くなりまして、私のことを事のほかに心配してくれた父も母が亡くなってから四

十九日目になくなりました。姉は元気ですが、いつも気掛かりです。ちよつと風を引いても、蛋白でもではないまいかと、気になって仕方ありません。

「移植は大いにやるべし」と確信してはいますが、脳死問題が進展しない今、生体腎よりも死体腎の方が望ましいでしょう。

## 手根管も二度手術

手根管も二度手術されたそうですが…。

今井 昭和六十年二月に左手、二年後の四月に右手をいづれも東京女子医大の太田和夫先生に切開法で手術をうけましたが、また痛みが酷くなって、平成二年六月ころは日赤医療センターの奥津一郎先生の内視鏡法による手術を両手一度に受けました。

これは五ヶの小切開ですむ方法です。

— お勤めはどうされましたか。  
今井 二度目の移植手術の後やめました。その後いろいろありましたが、宅地建物取引主任者の資格を取って、五十七年現在地に不動産産店を開き、六十年に有限会社に組織がえしました。

勤めていた時代、ラグビーに夢中になっていた今井さんは、体の異状に気がなかつた、というよりも丈夫すぎて、少々のことは気にしなかつたのでしよう。三十歳前に盲腸炎の手術のあと発熱するほどだったのに、退院後一週間でラグビーをするほどの豪ものの今井さんにとって、つらい十八年だったことでしょう。自分では「ケセラセラ」といいながら、母、姉からいただいた腎臓の重みは、今井さんを優しく、こまやかな心の持ち主にしたのだと思います。姉への思いやり、食事は気にしないといひながら、透析一日隔隔で二・二日、二日隔隔で三・三という優等生です。自分の体は自分のものであって、自分のものではないことを、いつも心掛けているのに違ひありません。

今井さんに語る透析人生を語る今井さん



# ひろがる交流の輪

## 東腎協のブロック活動

東腎協では昭和六十二年(一九八七年)からブロック交流会を開いています。目的は病院間の交流・情報交換などであり、平成元年度から役員だけでなく各会の参加希望者や個人会員も対象に開かれ、参加者も多くなってきました。多摩地区では二台のバスで旅行にでかけるなど、交流の輪は大きく広がっています。昨年の秋から冬にかけて五つのブロックで交流会が開かれましたので、その模様を紹介します。

### 南部交流会

#### 「鎌倉散策……」

秋の一日、のんびりと散歩しながら……と思っていたが、当日(十月二十七日)は雨、それでも集合場所には九名集まっていた。



「雨の鎌倉も良いのだ……。」と遅れて出発、座席にも座れ、近況を話したり、クイズを楽しんだりしながら向かう。

長谷駅に着いたときが一番雨が強くなり、「どうしようか」と思ったが先に歩きます。大仏様を見学しているうちに雨

### 東部交流会

#### 小さな集会の必要性

週末になると必ずというほど雨の降る秋である。十月二十七日、この日も朝から大雨となった。

台東区の社会教育センターに集まった東部ブロックの会員は、悪天候にもかかわらず、ほぼ申し込みに通りの、六病院からの二八人で

も小降りになりホットする。みやげ物屋をのぞいたりしながら、光則寺から長谷観音を見てまわる。

食事は「うどんすき」鶏肉と野菜、ガンモ、ユバ、餅などが彩よく並び食欲をそそるし、なによりも「うまかった」。食べながらの

あった。

午前十一時に始まった交流会は、前半を、全腎協二十周年記念ビデオ「歩みとどまらず」の観賞昼食をはさんで、午後はグループ別の自由討議が行われた。

会場も真新しく、終始和やかな雰囲気、熱心な話し合いが行われた。

話し合いの中では、合併症をかかえた悩み、患者会運営の苦勞など

話し合いは日頃のようすがうかがえて楽しかったし、なにより元気がわいてくるから良い。  
おなかを温めてから外に出るころには、雨も上がり極楽寺へと、のんびり歩きます。

極楽寺の門はカヤぶきで良かったし、庭のサルスベリの大木に、夏のさかりにも来て見たいと思つた。庭の茶店で、のみものビールミキキをいただき、予定のコースを終了する。

帰りの電車もすわれ、無事に帰路に着いた。交流会として鎌倉は、歩く時間も適当なので、また別のコースを計画したいと思う。その時にはぜひ多くの方の参加をお願いしたい。(山田)

が次々に出て、日ごろ思っていることが率直に話せたようだ。

その場ではなかなか解決できないことも多いが、口にするだけで気持ちが悪くなった、お互いの励ましになったりするものだ。

青空のもとのリクリエーションも楽しいが、体の不自由な人も参加できる、こんな小さな集会の必要性も感じられた一日であった。(高橋勇二郎)

### 北部交流会

## 壮快なライン下り

朝とても目覚めいい、九月二十九日七時に家を出てバスの配車地、池袋に一五分程で着いた。驚く事に参加者の皆さんはバスに乗っているではないか。初めて東腎協区北部旅行の幹事をやる事になり、計画、準備と王子観光バス会社と予算の交渉、長瀬ライン下りと河原でのパーベキュー、葡萄狩り、このプランは雨が降っては出



女性も力強くもちつき、これでも患者さん？

しぶきが上がれば上がるほど壮快さがますますライン下り」と書いたが正にその通りだった。  
パーベキューは「肉がない」とか「焼けていない」などワイワイ、言いながら戴いた、もちつきは健康な方のように木ねを振り上、驚く事に女性の方々もかわるがわるついた。つきたてのものは各自、きんこ、あんこで戴いた。私にとって今回の旅行は観光より幹事としての楽しさ、又帰りに

来ない。又、台風季節でもあった。祈りながら準備に取り掛かった。  
ビンゴゲームの景品は参加者の皆さんに喜ばれるようなものを選びたい、百円のボールペンにしても形や色まで考え、五十三名分用意しなければならぬ。自分の買物は楽しいがゲームの景品は難しく考えさせられた。予定より少し早めに長瀬に着き、天気にも恵まれたが、今回の旅行のメインのライン下りは台風の影響で川の水は増え荒れていた。旅行案内書に「水

皆さんからの「ありがとう」の一言がとても嬉しかった。  
次回には皆さんで材料を持ち込み料理して鍋を囲むようなバスハイキングを計画してはいかがでしょう。  
(谷地)

### 中央部交流会

## 元氣よい三本め

三井ビルクリニック

大坪 ミヨ

高勝あつ子



「透折だよ人生は、の替え歌を大会唱

ら着飾ったところで知れたものが、それでも何となく気分が華やいて浮々とするのは、いくつになっても楽しいものだ。  
十二月一日というのに、今年はとも暖かく会場に着くと役員の方々が待っていて下さった。テーブルの上に豪華なお料理がどっさり!!。約三十名程集まったところで乾杯となる。

毎日判で押した様な透折生活で、変わり映えのしない気持でいたところへ、東腎協のパーティーがあるというのでたまにはおめかし(おかめしかな?)でもして出掛けようと言う事になった。いく  
一人ひとり自己紹介をして透折年数を聞けば、二十年以上の方が何名も元気で出席している。ホホがほんのりしたところでカラオケが始まる。皆歌い慣れて堂々としたものだ。あちらこちらで交流風景が見られ、会場は賑やかに盛り上った。中には水刺りのグラスを片時も離さない御仁がいて、皆で心配するやら、おかしいやら……。ちなみにメニューはお寿司、スパゲティ、ローストビーフ、サラダ、煮物、テリヤキ、果物 etc.。和洋折衷で食べきれない程だ。ビンゴゲームをして全員賞品をいただく。  
最後に「透折の歌」を歌いヨーツという元氣良いかけ声で三本めめして今年を締め括った。役員の方々今年も本当に御苦勞様!!

多摩部交流会

とても親しく

立川第一相互啓クリニック

希望会 小針 満子

私達希望会の年間行事として、毎年どこかへバス旅行を計画しています。今年は交流の意味もあって東腎協へ入っている病院の患者さん達と一緒に、九月二十九日、バス二台で百名弱の参加でお天気も暑くもなく、寒くもなく、まずまずの出発でした。

美術館に着くと、ミレー等の本物を観賞ができ久しぶりの目の保養でした。石和温泉に着いて、昼食兼、入浴。大浴場でのんびりと温泉につかって汗をたっぷりかいたので、少しは体重が減ったかも知れない……？

恵林寺へ向かうバスの中で、ガイドさんが武田信玄のルーツなどの説明を下さいましたが、恐ろしきあまり戦国時代に生まれなくて良かった、と思いました。恵林寺を後にして、いよいよメインの葡萄狩りです。甲州葡萄がよく実っていました。

バスの中では、行きはクイズ、

ジャンケンゲーム。福りはカラオケで楽しんで、素晴らしい景色も沢山観賞できました。

バスに乗る前、「腎キョウバンで又お会いしましょうネ」と常任幹事さんに声を掛けていただき、初めに会ったのにとっても親しく感じさせていただき、東腎協にも積極的に出席する様にしたいと思います。

計画、準備をして下さったお役の方々、ご苦労様でした。

このように一回は情報交換など会議の場として、あと一回はバス旅行など交流の場として、各ブロックで様々なかたちで交流会を行い、着実に交流の輪が広がり、ブロック活動の役割を果たしています。

今、福祉が区市町村に移管され、これに対してブロックとしてどのような行動をとるのが課題となつてきています。

病院と居住の一致している多摩部、北部はブロックへの意識が高い反面、様々な地域の人が病院に通っている中央部などは自分の住んでいる地域への関心が高くなつていきます。

やさしい障害年金コーナー

シリーズ ⑦

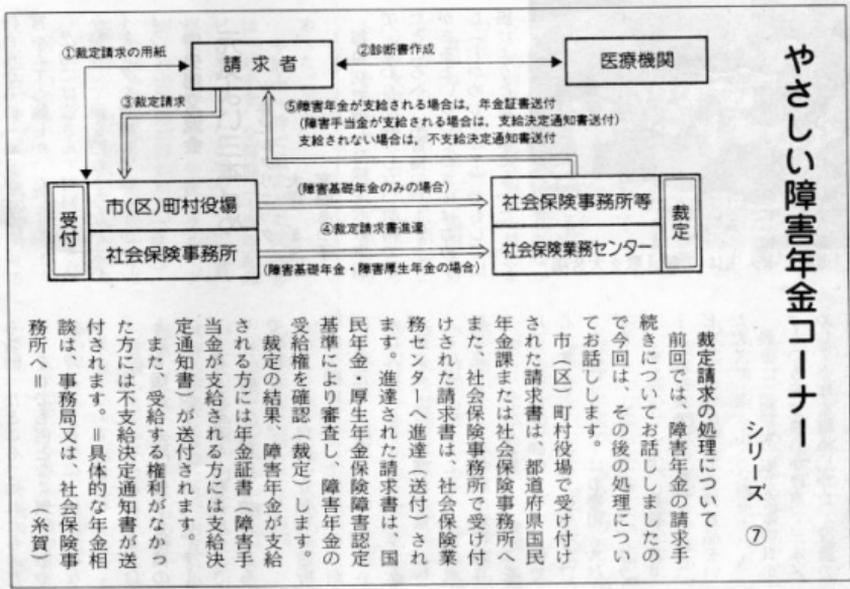
裁定請求の処理について

前回では、障害年金の請求手続きについてお話ししましたので今回は、その後の処理についてお話しします。

市(区)町村役場で受け付けされた請求書は、都道府県国民年金課または社会保険事務所へまた、社会保険事務所で受け付けされた請求書は、社会保険業務センターへ進達(送付)されます。進達された請求書は、国民年金・厚生年金保険障害認定基準により審査し、障害年金の受給権を確認(裁定)します。

裁定の結果、障害年金が支給される方は年金証書(障害手当金が支給される場合は支給決定通知書)が送付されます。また、受給する権利がなかった方には不支給決定通知書が送付されます。具体的な年金相談は、事務局又は、社会保険事務所へ

(糸賀)



# 谷間の難病患者に光を

## JPCが交流会を開き、デモ行進

日本患者・家族団体協議会(JPC)が十一月十七・十八日両日、「全国患者・家族集会」を開催し、全国から患者、家族、医療関係者

ら五百六十人が参加しました。東腎協からも二日間延べ三十七人が参加し、現在抱えている問題点、難病対策について熱心に討議されました。

二日目は、  
■難病の原因究明と治療方法の確立を。  
■総合的な難病対策の確立を。  
■私たちの住む町に十分

### 要求実現へデモ行進

な医療と福祉を。の三つの願いを訴えて、車椅子の人を先頭に霞が関をデモ行進、その後厚生省、大蔵省、建設省など関係省庁に陳情を行い、集会は盛大に終了しました。

全腎協としてこのようなデモ行進を行うのは三回目です。東腎協としては今回で二回目の参加です。

一回目は全腎協独自で一九七二年(昭和四十七年)一月九日、厚生省、大蔵省に予算要求のために行いました。まだ、透析医療にお金がかかり、医療費の公費負担(一九七二年十月に更生医療適用)などを求めているものでした。

二回目は「ゆたかな医療と福祉をめざす全国患者・家族団体連絡会」が一九八三年十二月二十四日、健康保険一割負担導入など、健康保険改悪阻止のために行っていま

す。

そして今回、三つの願いを訴えてのデモ行進です。この三回のデモ行進はいずれも私たち障害者、難病患者にとつて厳しい状況から生まれています。今が私たち患者にとつていかに厳しい状況に追い込まれているかがうかがえます。

国や都で特殊疾病患者と認められていても、病状が固定していないとして(たとえ病気が進行していても)身体障害者福祉法の対象として認められないため、年金や各種手当がもらえず、日々の生活に苦しんでいる谷間の難病患者がたくさんいます。

デモ行進は日比谷公園霞門から出発です。われわれ患者の表情を訴えるため厚生省をはじめ各省周辺をぐるっと一周しました。街行く人も「なんだらう」と振り返り、車椅子を見て、患者団体の行進と気付くと激励の拍手が送られました。

一周約四十分の行進でした。この二日間に渡る行動が一人でも多くの人の賛同を得て、三つの願いが一日も早く実現されることを願っています。(草間、金子)



全腎協小林事務局長の報告も

車イスを先頭に三つの願いの実現を求めて

# ななまの たより

会員の皆さんから原稿を募集しています。うれしかった事や悲しかった事、苦しかった事などの闘病記、ひとり言やカット、写真などなんでも気楽にかいて事務局へ送って下さい

## 多満ビルひまわり会 の二つの快挙

その一（おめでた）

菊薫る、十一月十七日、当会員の中西次夫君（三十五歳）と福島正江さん（三十五歳）が、八王子市、子安神社墓記念館において華燭の宴をあげました。新郎の中西君は透析歴六年、新婦の正江さんは七年で昼は、それぞれの職場で活躍され、月水金の夜間透析、そこで愛が芽生え、この度、めでたく結ばれました。

お二人の前途を祝し、あらゆる困難を乗り越えて互いに助け合い立派な家庭を築き後輩の良き、お手本となるよう心よりお祝い致します。



## その二（海外旅行）

多満ビル診療所院長、栗本先生を団長に、落合技師、原島看護婦が介護員とし、当院系列の川崎クリニックと狭山病院の透析患者会の皆さんと、ハワイ旅行に行ってきました。当院から男女九名総計三十二名が参加しました。十一月十日より十五日、四泊六日、ハワイ、マウイ島の旅でした。

透析はハワイのアロハダイアリス、センターで全員が実施し、観光に、ショッピングに、食い道楽にと、常夏のハワイを堪能し、全員時差ぼけも無く真っ黒になって無事に帰国しました。

## 短歌

桜ヶ丘クリニック

武内千代子

新しい年を迎えて我もまた

透析年を重ねつつ生き

しみじみと病友と語りし透析の管理の日々を

いかに生きんと

誕生曰忘れし事も有りたるに透析受けし

初の曰忘れず

腎バンク吾れ果てるとも悔いはなし幼き見舞に

ドナーなきかと

十二年我が闘病の苦しみも人生の師と

友となりなん

二十年の透析人生終りたる三十八歳の

天寿なりしか

惜別の悲しみ重ね歩みけり我が人生の

透析の日々

シャント音遠ざけて響るくせつきて浅き眠りに

氷雨降る音

久方のうたげの宵の楽しかり今日の生きの日

暮きと思つ

かすかすのカラオケ聞きて病友の健やかなりし

年忘れの宵

## 透折患者の希望の灯

(透折患者の妻)

加藤 尚子

昨年十月の、新聞記事の話ですが、国内のどこかの市で交通事故が起きて、三十歳の男の人が脳死と判断さ

## 献血

東山クリニク

岡部 宏

透折が終つて家に帰りますと、宅急便が届いてますとのこと。開けてみますと、日本赤十字社より長男に百回に及ぶ献血に銀色功

労箱の贈り物でした。長男が時々献血をしていることは知っていました。が、十回か二十回位かと思

っていました。百回とは一年に六回にして十七年、本当におどろきました。独身のときに妹が、兄さんはデートの時でも献血車が見えると、恋人を待たして献血をしている。あれで

れ、〇〇大学へ知らせたら、その大学では設備がないから、人手が、スタッフがいなかったかで、臓器輸出を断つたという。

第一に考えたことは、「どうして」という事だった。大学側では何を恐れたのだから

は成功するわけないよ、と話しているのを聞いたが、今にして思うと献血に対して強い信念を持っていたのではないかと思われ

る。実は長男が熊本に勤務していた。一年前に米国に勤務になり、家族共

米国に引越しましたので、赤十字社でも困つて色々調べて、実家の私に送つたのではないかと思いま

す。帰国して内地に勤務するようになつたら、今度は二百回に頑張りなさいと勧め

う。一日も早く病院側の「こ」とわつてはまずい」という意識を作つて欲しい。世間様にだいて自分の体が役に立つという気持ち、やさしさのなるが、それが金銭からんだり争いごとにならないよう、知恵のある人達の活躍を期待している。

民間のほうが今のところは移植への意識が高いように思える。いつかその意識が大き

いなりなつて、頂点に達するだろう。だけど危険もあるだろう。だげど危険もある透折患者の一つの希望の灯なのだから。

いつも新聞記事の切り抜きばかりで恥ずかしいけれど、週に一度、投稿歌の紙面がある。

その中の一句  
「りりそよく庭に向いてはつねんと 透折終え束し夫は座しおり」

選者は旦那さんの淋しそうな姿を見て奥さんも淋しいといっている。

庭に向かって木々にとらめつこして黙つていてはま

わりは困るのです。

こういうわけだからこうして欲しいとか、身体はこういう状態だからどういう物を料理して欲しいとか、何かあるはずです。

この奥さんは遠くのほうからそつと見ながら、ただハラハラしているような気がする。

本人にしてみればそうとう落ちこんでいるのだから、腫物にさわるようなあつかいではなく、一緒に力を合

わせて、より快適な生き方が出来るように、前向きに生活して欲しいのだと思う。

希望のあかりはもうすぐそこにあるのだから週三度の健康チェックを受けている位に考えて病氣と闘つて欲しい。

まわりの家族だって、それなりに悩むことだつてあるのだから、夫婦して淋しい、く

るしい、悲しいなどといつていてはつとも解決にはならないでしょう。土日は元氣だ、御飯がおいしい。こういう気持ちを持ちつければ、頑張れると思つています。

今「脳死による臓器移植」へ移行して  
良いのか  
園分寺南口クリニック親光会  
下田 靖雄

政府「脳死強調」の最終意見書が間もなく出るとのことです。「脳死移植」は国民の合意を得て、と言いつながら、

各都市の市民団体、日本弁護士連合会及び識者評論家などの反対があるのに、脳死強調は「公聴会を実施した」ことを楯にとり、移植医師の感想とおりの「臓器輸出」を実施させるようです。本当にそれで

良いのでしょうか。脳死が人の死であるかどうか科学的にも死でないし、患者本人、家族への保証もないままに実施するのでしようか。移植医師のみがICUの密室で死を判定して臓器輸出をすること

は、「早すぎる死の判定」とはならないのでしょうか。大学医学部の倫理委員会の審査

などがあるとして、患者家族に「信頼関係」を求めますが、同じ組織の医師で構成する委

員会が「信頼関係」を求めますが、同じ組織の医師で構成する委

員会の決定に信頼がもてるのでしようか。単なる形式的な審議で、事後承諾により、これまで各地で問題を生じています。レシオ目白の生命を救うと言ひ下りの、強制死されるドナーおよび、その家族の人権はどのように守られるのか明確にされていません。「ドナー」の意思の確認、脳死判定、インフォームド・コンセント」などが医師の裁量のみでなく、本当に患者、家族の納得のゆくよう、実施される方法を確立しなければなりません。いまは、あまりに「臓器摘出」に急ぎ過ぎるあまり、観念的に判つていて、具体的な方策は決まぬままに「移植」へ移行する傾向があります。「ドナー・カード」の普及に時間を要すると言つて、結局は家族の反対のないことを条件にするでしょう。しかし、現状ではドナーの家族は医師に対する対抗手段はないでしょう。

最近の報道は、どうすれば円滑に「脳死移植」ができるかと言ふ論調が目立ち、心配

しています。たしかに臓器移植により人命が助かるなら、それ自体に反対はしません。特に「腎不全」患者はドナーを強制死させなくとも、生体移植ができますので、それも医療の一つの分野であり、大いに普及させて欲しいと考え

てます。しかし、「脳死者からの臓器摘出」では毎年増大する腎不全患者を移植で助けることなど出来る道理がありません。したがって、それは臓器売買につながっていると報道されています。経済優位



楽しそうな常任幹事たち

者が倫理無視に走るのです。報道陣も、移植医師の誇らしげな記者会見のみを報道する

より、移植家族の実体も取り上げ、正確に「臓器移植」の状況を知らせなければなりません。実際、各界の識者が新聞紙上で「脳死に対する慎重論」を述べられても、その声は小さく、国民に広く行き渡りません。臓器を人間の部品と考へて、安易な交換技術に流れる医学は正しい先端医学とは言えません。優れた人工臓器の開発を急ぐことが先端医学

### 常任幹事が箱根へ

十一月二十三日二十四日に常任幹事の旅行会で紅葉の箱根に行ってきました。

十一月は行事が多くキャンベーンが十一月にめつたむなど忙しい合間にゆつての憩ひのひとときでした。

大湧谷を見物しましたが登山電車は山手線のラッシュアワー並でとても「憩」のひとつと言えませんでした。

ではないでしょうか。人間を、その心・魂を無視して単なる「有機物体」として扱えるのでしょうか。

つい最近、私は実際に臨死体験をしました。「早すぎる脳死者からの臓器摘出」が、どれほど危険なところか、多くの人に知って貰いたいと思ひ、実費出版しました。もし、あなただまたは、家族が「移植しなければ命は助からない」と主治医から宣告されたら、ぜひ一度、私の著書を読んでから決心してください。お問い合わせはリーベル出版(03-3234-1368、定価二千五百七十五円)へ。

### 病棟の正月

須田クリニック

白井 次郎

クリスマスの日前から下痢が始まった。いつもは一日で終るのが今度は長く次第に激しくなって急速に元気がなくなった。クリスマス之夜、アルゴルの強い妹妹が来て賑やかな食卓なのに加わるこ

翌日下痢が異常なので長男が心配して通院したら「至急女子医大へ電話したら」至急来院せよとのことであった。

一年半位前囊胞腎と診断されて二週間毎の通院と山程の授業が待っていた。二週間位前、担当のS医師が「データーがまちまちですから当分大丈夫ですネ」と言われていた矢先の急変であった。病院へ着くと点滴と生まれて始めての透析であった。両手は動かすこともできない。唯、白い天井を見つめているだけだった。

四階の腎内科病棟の病院へ、ここはこの前検査で入院した同じ病室でまだ退院しない顔見知りの患者が「ヤアー又来ましたネ」と迎えてくれた。大晦日になると軽症の人達はお正月を自宅であつて、いつものパジャマ姿でなくて美しい色のスカート姿でエレベーターから消えていった。朝、顔を洗う時左手を少し動かすとピリツ痛い。「ああそうだ二十九日に手術したん

だ」と思った。シャントなんて始めて聞く言葉だしその意味も理解できなかった。

病棟にもお正月が来たらしくナースステーションのカウンターから小さなお飾りがあった。そして夜は恒例の紅白歌合戦が始まったが、ブラウ

ン管の華やかなステージを見る気もなくスイッチを切った。そして涙が出て来た。元旦になった。デールーム

はいつも賑やかなのに誰も居ない。窓から新宿西口の超高

### 「忘年会の歌」

東海病院ひまわり会

草深 源三郎

私たちひまわり会の方々も

普段は顔見知りで挨拶程度でお互いに話し合う機会が殆どありません。忘年会のように

お互いにその経験を語りあうことが、どんなに相互の参考

になるかを知ることが出来、また、腎患者は正常者より何

倍かの自己管理が必要であるかを知りました。

「忘年会の歌」はその点を

腎ビルの霞んでいる。近くの家々では皆楽しく新年を迎えているだろう。ナンテことだ。七十歳の正月を病院で迎えるとは！実に情けない気持ちであった。

いつもより少し遅く朝食のアナウンスがあったのでデールームへいって見ると、おせち料理があった。きんとん、蒲鉾など量は少ないが一応お

せちの形をしていたが、お雑煮でなくて、磯巻であった。わびしい元旦、こんなのは

強調することが出来ませんで

したが、お互いが話し合い、

恵めあう機会を持つことが有意義と思つて書いてみました。

十二月八日ひまわり会の忘年会に妻を伴ひ出席をしめ

ひまわり会員三十名病院側より三名の参加

江本先生透析患者の合併症と治療対策についてお話し下さ

る。講演内容 消化器 消化管 肝胆脾臓 心血管

内分泌 特に糖尿病 骨筋腫

生まれ始めてだった。三日の夕方だったか、病院の隣りにあるフジテレビに勤めている長男が来た。「一杯飲みた

いもんだね」と冗談を云つたら「酒なら局にいくらでもあ

るヨ、持つて来ようか」と云う。まさか病室で一杯と云う訳には行かなくて苦笑したこ

とであった。透析を最初にした時、こうなったらビールも飲めないし、速くの旅行もできないの

かと思つて泣きながら、S医

精神神経または感染症

八項目五十四症例とその治療

対策について一時間半

婦長さんは看護の使命と患者への希望を申し述べらる

栄養士さんは栄養の基本と透析食作りの目安についてお話し下さる

栄養の知識を持たぬ片田舎の母に育てられきみが大正期

透析食とややかけ離れた中華料理でつき出でて飲み

師が笑いながら「大丈夫だよ尿が出るからビール一本位飲めるヨ」とこんな嬉しい言葉は久しぶりであった。

透析をしてから八年になる、幸い前の様には飲めないがウイスキーも飲めるし、金

沢、長岡、京都の病院で透析ができたし、海の方こうにも何回か行けた。東京にはない

清らかな空気、いろ鮮やかな花と緑と澄んだ海に接した。誰でもそうであつたらうが腎不全と診断されて透析となる

会すすみ日頃自慢のカラオケ

が始まる頃に夕暮れとなる

常日ごろ顔知るだけの患者同志共に語れば皆打ち解けて

お互ひの病状を語り合ふことがどんなに参考になるかを知

れり

からだの不調つづけて腎不全に陥へりし過程を誰もが語る

腎不全に陥へる前の日常の健康管理が肝要と知る

会果てて皆晴々としりゆく練馬の街の宵のともし灯

絶望状態に一時はなる筈、然し人生きて寝はないものだしみじみ思うのである。

### 慢性の頃を思い出し

むさしの会

牧山 幸子

1、都民の集いの北本先生の久々のお話し「けんめいなスピーチ」とも良かったと思います。慢性腎炎の頃をなつかしく思い出しました。

慢性の方々はともわかりやすく又長沢先生のスライド

もお見せになられ二重に幸せ

なシンポジウムで最近の慢性のかがたも早期発見をお

友達又家族の方にもおつたえ

になられることを陰年お祈りしたい次第です。

2、美人の松村さんの司会

とても良かったです。

3、音楽もとても気が静まりました。

4、杏林の木村さん、撮影ご苦労でした。

5、スライド大変良くわかりました。

常任幹事の皆様ご苦労様

でした。

# 天まで届け献腎の声

多摩地区は八王子でキャンペーン

## 大変な早朝の準備

国分寺南口クリニック

中村 軒三

私は八王子の会場に参加致しました。例年開催が午後でしたが今回は午前中であつたので準備の為に早朝から出掛けました。

荷物の関係で急に運搬係を依頼され朝七時に家を出て小泉常任幹事毛に向かい、前日



から準備した袋詰めの手ラシと粗品を積み込みましたが大変に量が多く無理をしてどうにか全部積み込みました。

十時には会員も大分集まつて居り竹田副会長の説明の後、皆さんが駅前中心に配布を始めました。

当日は日曜日でしたので何か催し物もあるのか朝から人が多かったので配布して一時間ぐらいで終わりました。

袋が大きいので何が入っていますかと聞く人がおりましたが、本当に気持ち良く受け取ってくれました。十分に効果はあつた様に思います。

一つ残念な事は八王子駅前の会場が狭いのもっといい処を選んで頂きたいとおもいます。

## 若い人の無関心

調布病院腎友会

佐伯 武夫

私たち調布病院腎友会から七名と付き添い一名の八名で参加をさせてもらいました。八王子駅前をD.P.P.前で全員落ち合つて竹田副会長の説明を聞いてから、袋をそれぞれ五つ六つづつ手に持って駅前付近に散らばってゆきました。天気も良く日曜日のため駅前は相変わらず出人出が

多く「キャンペーン」にはもつてこいの日になりました。袋を手渡すとき若い男の人は相変わらず受け取ってもらえませんでした。子供を連れた奥様とか、お年寄りの方は手をだしてくれました。なかなか手を出してくれませんでした。配るには人を見て配るようにしたらもっと早く配れたと思いました。それと患者会から大勢の方の参加があつた事も、早く終わった事ではなかつたかと思ひました。

又、今日のために準備をし

てくださりました常任幹事さんのご苦労も大変だつたと思ひました。今後とも身体をつづられて、下部組織の患者会のために宜しくお願いいたします。

今日は色々ご苦労様でした。

## 有意義な一日

あけぼの友の会

林 敬子

あけぼの病院の院長先生始め諸先生、看護婦さん達の暖かい看護によつて私も二年目を迎えようとしています。本当にありがとうございます。お陰様で身体の方も順調で普通に動いています。

十一月十日に八王子駅前にて腎移植推進キャンペーンに参加させていただきました。車窓からの眺めは実に美しくお話しをしながら八王子駅に着いたのは十時前でした。この日は肌寒い一日でしたが道行く人に腎バンクへの登録を訴えました。私達の組織では「てるてる坊主」に入った磨セットとチラシを配つたは

か血圧測定をする等アイデアを使った腎バンクへの登録を訴えました。

心良く受け取つて下さる人、しらん顔して過ぎ去る若い子いろいろでした。子供連れのお母さんが割合心良く足を止めて下さいました。

これからも出来る限り出席したいと思つています。皆さんが一生懸命で呼びかけて下さつたので短時間で終了致しました。私にとって本当に有意義な一日でした。

役員の皆さんには心から感謝致します。

「僕、献腎に

登録しています」

吉祥寺クリニック腎友会

井上 寧枝

キャンペーンは大学祭華やかな時期のせいか当日思ったより多くの人波があつた。配る数千ヶ腎察署より許可された時間帯二時間参加人数常任幹事いれて五十名で十時より常任幹事は都より支給の赤いジャンパーを着用し、参加者は「腎バンク」と書かれた



私も血圧を測って下さい。

ゼッケンを上着の上から着用しての運動であった。私は若い頑丈な男性をターゲットにしてアタックして行ったが驚いた事に「腎キヤンペーンですおひとどうぞぞ、献腎にご協力下さい、中にハブラセットが入っています。とごにこしながら声をかけるのですが、手をあげて結構と言うれぐさをする人、なんとなく顔を反対側に向けて結構というサインを送る人が、なんと八割がたのことです。どうして無関心な人がこうも多いんだらうと、ちと淋しい気持ちになったが、「僕、献

腎に登録しています」とおっしゃって一緒に居た友人にすめて下さった方がおられた時は、本当に嬉しかった。勿論二人にハブラセットの入った袋を渡した。バス停に列を作っている人にはターゲットをを広げて若い男女に、四十七歳位までの男性的にして、ぶつかっていった。並んでいる人は逃げる訳には行かず、ちと頭を下げて手を出して下さり助かった。信号待ちのところに机を出して血圧測定。受付け等と書いてあるので、献腎の申込みを書いて下さった青年が二名ほどいた様だ、腕を出した人も数名いたように思った。いろいろなことわつたのに、信号待ちの時まだ配布物が一杯入った箱や、机の上を覗きこんでいる人がかなりいた。ことわつたのに袋の中が気になるのかなと思つた。許可された範囲内の運動ではあったが、時間が余つたくらい千福は、すぐはてしてしまつた。臨時でやつたとは言え、やはりそれなりに「のぼり」を



第30回全腎協関東ブロック会議

立てるなり、音楽をいれて、その合間に献腎の呼び掛けをすると言つような録音テープを流してやれば、もつと効率の良い腎キヤンペーンが出た。

### 「要介護問題」など継続審議に

#### 全腎協関東ブロック会議開く

来たのではないかと思うが………。都で予算をとって下さるのですからもつとこちらの意見を反映させたらと思つた。

十二月七、八日の両日東京中野サンプラザで八都県三十六名が参加して第三〇回関東ブロック会議が開催されました。先ず東京の泉山会長、そして全腎協を代表して一ノ清関東ブロック代表よりそれぞれ挨拶があり会議に入りま

最初に全腎協と各県の活動報告があり次に十一項目の議題の討議に移り活発な意見交換を展開しました。特に①の「市町村単位患者会」の組織化については各県の現状報告により、どう活動し地域の組織化を計るか、また今後の取り組みについて協議しました。④「腎バンク」の活動の現状と登録者拡大などの強化策については各県における腎バンク結成への活動、組織適合性検査費用の助成、移植推進のため行政と医療の連携を図る組織について報告検討し⑧「要介護透析者対策の具体的な進め方について」は各県より具体的な行動を報告してもらい全腎協からアンケート結果の紹介があり、今後老齢

化が進むにつれて益々具体的な考え方を示す必要がある事を確認しました。その外各県の二十周年に關する対応と有料道路料金制引運動については全国的な運動と全腎協として国会請願を行つた目的達成に努力するべきとの結論に達しました。この他の議題についても討議をし、特に①④⑧については継続審議と言う事で二日間の会議は無事終了しました。(川島)

### 表紙のことば

東京が江戸と呼ばれた頃から、人々が正月用品を買い求めた市のひとつが羽子板市です。十二月十七日から三日間浅草の観音様の境内に、五十店程の羽子板の店がならんで、たくさんの人でにぎわいます。押し絵には歌舞伎役者から現代の若貴までありました。そして羽子板市が終ると正月です。(本間)

# 事務局から

## 長崎県腎協から普賢協 被災会員カンパのお礼

依然として火砕流などの不安が続き住民は恐怖にさらされている毎日を送っていますが、このたび長崎県腎協から東腎協に対してカンパの御礼状が送られて来ましたのでご紹介します。また今回、ご紹介できませんでしたが、被災会員の方々からお礼のたよりが寄せられてきています。

### 御礼状

謹啓 師走の候、皆様には時下ますます清栄のこととお慶び申し上げます。さて、この度、私たち長崎県腎協、島原ブロック会員の災害に対しては格別なご厚情を賜りまことに有難うございました。

お送り頂きました義援金は、被災された会員、スタッフの方々の医療と生活の復興のために、大切にまた有意義に使わせていただき

ます。

なお、これを機会に今後とも私たち長崎県腎協に対し暖かいご支援、ご理解をいただければ幸いです。

直接出向いてお礼申し上げるべきところ略儀ながら書中をもちましてお礼申し上げます次第です。

時節がらお体をくれぐれもご自

### BOOK紹介

私たちが東腎協の腎キヤンペーン、腎臓病を考える都民の集いなどでお話になっている松村満美子さんが「腎不全を生きて―腎臓病患者五人の軌跡―」を出版されました。

患者たちのインタビューなどを通じ、日本一の長期透析患者の田島熊男さんなど五人の腎臓病患者の追跡をつづつたドキュメントで

愛下さい。

平成三年十二月十四日

謹言

長崎県腎臓病患者連絡協議会

会長 上村 俊昭

東京都腎臓病患者連絡協議会御中

す。

お申し込みはお近くの書店、または出版社へ。ミネルヴァ書房

☎〇七五―五八一―五一九一

### ▼アシスタント募集

G・デザイナー・養成します。グラフィックデザインはハンディを感じない魅力的な仕事です。履歴書持参の上、一度遊びに来て下さい。

有会社ナンバーエイト

渋谷区千駄ヶ谷5-1-21-5

ミサワビル七〇三

☎三三五―四五五四

代々木病院腎友会

透析歴十二年 工藤松太郎

### 署名募金運動にご協力

ありがとうございます

昨年は雲仙普賢岳の被災会員救済カンパをはじめ、有料道路の署名運動、全腎協、日患協(JPC)の署名募金運動へのご協力ありがとうございました。

今年も東腎協の二十周年です。会員交流会では楽しい企画も準備中です。本年もよろしく!

### 新入会員紹介

よろしく

田中助成、野中フサ、斉藤正子、黒田てる子、中西辰子、船戸妙子、佃男子、秋山嗣、阿部志津子

### 〈編集後記〉

昨年十月に新宿区下落合から豊島区目白に東腎協事務所は引っ越しました。そこは川村学園に囲まれた一角にあり、静かなところだ。

川村学園の小学校は下校の際に、一年生から順番に先生を先頭に二列になって校門から一斉に帰る。一、二年生の様子はカルガモの行列のようにたいへんかわいく、編集などに行き詰まったときの服の清涼剤になる。(草間)



司会 松村満美子さん